

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	26年度
事業名	児童センター運営事業	担当課	福祉課
細分化した事業名			

### 1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第6次長期総合計画での目的体系	基本方向	将来を担う子どもをのびのび育むまちづくり	
	政策	子どもを安心して生み、育てられる社会の実現	
	施策	子育て支援の充実	
関連する個別計画等	韮崎市次世代育成支援地域行動計画	根拠条例等	児童福祉法第40条/韮崎市立児童センター設置及び監理に関する条例

### 2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	児童センターは児童に健全な遊び場を提供し、健康の増進・情操を豊かにすることを目的とする。 放課後児童クラブは昼間保護者が家庭にいない児童に遊びの場、生活の場を提供し、その保護者の就労を支援する。
事業の手段	各センターに2名の非常勤児童厚生員および日々雇用指導員0.5人を配置する。 (非常勤児童厚生員2人×4施設=8人・日々雇用指導員0.5人×4施設=2名) 施設数 児童センター4施設 児童クラブ4施設 5クラブ 開館日時 月～金曜日 13:00から19:00 土曜日は韮崎のみ開館7:30から19:00 (放課後児童クラブ 学校休業日及び長期休暇中7:30から19:00) 事業概要 児童センター 子育て支援に係る各種教室の開催及び施設開放、地域子育てサークル支援 放課後児童クラブ 留守家庭児童等の安全な生活の場・遊びの場を提供
事業の対象	0歳から18歳までの乳幼児、児童、生徒及びその保護者 午後：放課後児童クラブとして小学生の利用が中心

### 3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		23年度	24年度	25年度
A	事業費 (千円)	42,849	29,026	31,198
財源内訳	国・県支出金	19,371	10,244	11,369
	その他(使用料・借入金ほか)	5,481	5,027	6,043
	一般財源	17,997	13,755	13,786
B	担当職員数(職員E) (人)	1.42	0.85	0.85
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	9,683	5,684	5,518
D	総事業費(A+C) (千円)	52,532	34,710	36,716
主な事業費用の説明		賃金・共済費≒23,000千円 需用費5,000千円 委託料2,500千円等々		

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、23年度(6,819千円)、24年度(6,687千円)、25年度(6,491千円)を使用しています。

### 4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			23年度	24年度	25年度
活動指標	1 児童センター	センター利用者数 4センター	12,162	2,852	2,160
	2 放課後児童クラブ	クラブ利用者数 5クラブ	24,832	26,892	31,944
	3				
妥当性		<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない			
上記活動指標と妥当性の説明		1	児童センターはその機能を子育て支援センターに移したとして、平成24年度から午前中を閉館としたが、利用を希望される方のために団体登録により利用できる制度としたが3団体に留まった。		
		2	児童クラブは、少子化にもかかわらず利用者は増加しており、両親が就労している家庭の支援は出ている。		
		3			

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			23年度	24年度	25年度
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	1日あたりの児童センター利用者数 延べ利用者数/開館日/施設数 2,160人/290日/4センター	10.4人	2.4人	1.9人
	2	1日あたりの児童クラブ利用者数 延べ利用者数/開館日/施設数 31,944人/290日/4クラブ	21.3人	22.9人	27.5人
	3				
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない			
上記指標の妥当性と 成果の内容説明	1	午前中の閉館により利用者は減少しているが、子育て支援センターがその代替として十分に機能を果たしており、政策的にはやむを得ないものと考えます。			
	2	児童数の減少にもかかわらず、利用者数は増加しており活動も活発に行われている。保護者の就労を支援する意味からも成果は上がっている。			
	3				

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 拡大 (コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 (事務的な改善を実施する) <input type="checkbox"/> 全部改善 (内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小 (規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止 (廃止の検討が必要)
事務事業の改善案	改善の概要・方向性 (いつまでに、どういう形で具体化するのか)
	26年度の改善計画 (今後の事業展開説明) 子育て支援センターでは、人が多すぎて馴染めない、外遊びが出来ない、併せて児童センターが午後からの利用ではお昼寝の時間と重なることから、午前中の開館を求める声は少ないながらも根強くあった。 また、午後から勤務では、職員が日常の事務に時間が割けないことから、26年度から午前10時からの開館とした。 平成27年度に子ども・子育て新制度が施行されることに伴い、放課後子どもクラブの施設基準を設ける必要があります。 参酌すべき基準として、1人1.65㎡の面積と1クラブあたり40人定員となります。 これらを踏まえ、北東・甘利については、施設の利用方法や増改築等を検討する必要があります。
過去の改善経過	平成9年4月 北東児童センター開設、平成11年4月 甘利児童センター開設 平成14年4月 北西児童センター開設、平成16年4月 葦崎児童センター開設 平成23年4月から放課後児童クラブを有料化し利用料を徴収 第1子 月額2,500円ほか 1日会員第1子300円ほか 平成23年4月から甘利児童クラブを1クラブから2クラブに増した。(会員増加のため) 平成24年4月から午前中閉館
課長所見	期待どおりの成果が得られている。 一部は施設的に受け入れが限界に達している。